

教材 No.14 ナイスプレー、みんなでタッチ！

<対象> 小学校低学年～中学年

<関連する教科等>

- ・特別活動 学級活動 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- ・生命（いのち）の安全教育
- ・SOS の出し方に関する教育
- ・道徳：個性の伸長 / 友情・信頼 / 相互理解・寛容

<教材制作の意図>

昨今、性のあり方の多様性や人権尊重の重要性が改めて指摘されている。そうした課題と関連して、文部科学省は「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」のもと「生命（いのち）の安全教育」の推進を求めており、小学校低・中学年においては「自分と相手の体を大切にすることを身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする」ことをねらいとして設定している※1。

こうした背景のもと、本教材では「自分の体を大事にする」ことをテーマとして、プライベートゾーンへの接触に関する問題を描く。主人公のカズマは、クラスメイトとサッカーをする中で、自分のプライベートゾーン（教材中ではおしり）を触られるのに違和感を抱く。友達はふざけておしりを触り合っているのだが、なぜか自分はそのノリについていくことができない。自分が周囲とは違う感覚をもっていることや、こんな悩みは些細なものではないかという思いから、一人で悩んでしまう。

本教材をとおして、誰かの体のプライベートゾーンはおふざけでも触ってよいのか、やられた側がおふざけだからと相談できず困っていることはないか、こういった問題にどうしたら気づくことができるかといったことについて考えてみたい。

※1 https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html#elementary-low

https://www.mext.go.jp/content/20210416-mxt_kyousei02-000014005_31.pdf

<話し合いのポイント>

子どもたちの意見について、共感的に聞いたり、発言の意図をていねいに確認したり、それぞれの考えの違いについてつっこんだりしてほしいです。

その際、次のような点についておさえておくと、やりとりが深まると思われます。

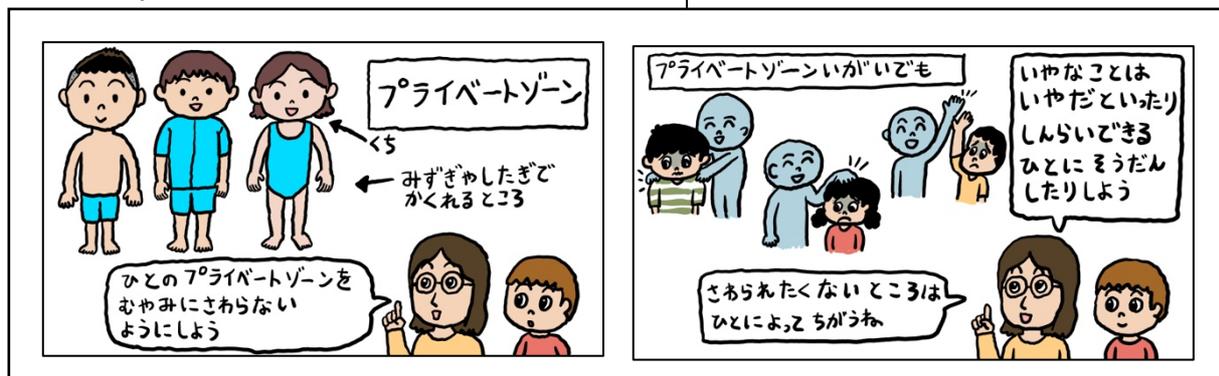
- 教材では「ハイタッチ」と「おしりを叩くこと」が描かれているが、それらは違うことだろうか？ なぜカズマは違和感を抱いたのだろうか？
- 触られても大丈夫な場所と、触られたくない場所というものがあるだろうか？
- 人の体に触れるときに、どんなことに気が付いたらよいだろうか？
- 親しみを相手に伝えるのに、体を触ること以外の方法はあるだろうか？

- 体や性のことで嫌な気持ちになったとき、相談しづらいという気持ちになることがあるだろうか？
それはなぜだろうか？ 誰にどうやって相談すればよいだろうか？
- 同性なら体のどこを触り合ってもよいだろうか？

<授業プラン> (40~50分)

活動内容	補足・留意点等
<p>■導入</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今回学習するテーマについて想像をふくらませる。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 体育やスポーツをしているとき、その他のときなど、ふだん誰かの体にふれることがあるか考える（ハイタッチなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> • 話し合いの時間を確保するために、導入の話に時間をかけすぎず、早めに教材の視聴に入れるとよい。
<p>■マンガ教材の視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教材「ナイスプレー、みんなでタッチ！」を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 視聴後、小グループで感想を話し合う。何名かに発表をしてもらう。 ➢ 内容が伝わりづらかったようであれば、カズマがどんなことに困っているかていねいに確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 感想をざっくばらんに話し合ったり発表したりすることで、意見を言いやすい雰囲気をつくりたい。
<p>■マンガ教材の問題点について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> • ストーリーを追いながら、登場人物の気持ちを想像する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 最初に「ハイタッチ」をしたとき、カズマさんはどのような気持ちだっただろうか？ ➢ 「おしり」を叩かれたとき、カズマさんはどのような気持ちだっただろうか？ ➢ 友達はどんな思いで「おしり」を叩きあっているのだろうか？ 悪気がないとすれば何が問題なのだろうか？ • カズマさんは、このあとどうしたらよいだろうか？ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 先生に相談する、我慢してサッカーをする、みんなに自分の気持ちを言う、等 • 問題点を整理するために「プライベートゾーン」というものがあることを説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ イラストにあるとおり、ロや水着で隠れる部分を「プライベートゾーン」と呼ぶことがある。人の「プライベートゾーン」はむやみに触って 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業スタイルによって、様々な話し合いの仕方を採用して構わない。ペアで話してから全体で共有する、まずはノートに書かせる、思考ツールを活用する、等。 • できるだけ、一人一人がたくさん話すことができ、たくさん意見を聞き合えるとよい。問題に対して、様々な見方・考え方があることが知れるとよい。 • マンガ本編とは別に、左記の補助イラストがウェブサイトからダウンロードできる。そのイラストを活用しながら説明をする。^{※2}

はいけない。また「プライベートゾーン」以外でも触られたくない所は人によって違う。自分の体や、他者の体を大切にすることが大事である。



■自分やクラスの問題として考える

- ・ ここまでマンガの問題について考えてきました。もしかしたら、こうした問題が現実に自分やクラスの中で起こってしまうことがあるかもしれません。みんなで楽しい気持ちで遊ぶために、自分やクラスでできること・気をつけたいことはあるでしょうか？（起こってしまったときに、何ができるでしょうか）
 - 人の体を大事にするよう気をつける、嫌なことは嫌だと言ったり話し合ったりできるようにする、嫌なことがあったら相談をする、等。

- ・ 上記「話し合いのポイント」を参考に、話し合いの方向性を想定しつつ、自由に話を広げていけるとよい。
- ・ 多様な意見を歓迎するが、いじめに類する行為を肯定するような意見（いじめられる方が悪い、いじめられても仕方ない等）に対しては、思いを受け止めつつ、その行為の問題性について適切に理解をしてもらうよう留意する。（「傷つく人が少しでもいなくなるように、何ができるか知恵を出し合いたい」という思いを伝えていきたい）
- ・ 自分のこととして考えたり、自分たちクラスのこととして考えたり、発想を広げていけるとよい。

■ふりかえり

- ・ 今日の授業のふりかえりをする。
 - これからの学校生活や、友達とのコミュニケーションに今日学んだことを活かしてください。

- ・ ノートに書く、何名かには発表をさせる、等。考えたり話し合ったりしたいことを言葉でいねいにまとめられるとよい。

※2 体の中のどの箇所を「プライベートゾーン」と呼ぶかということや、「プライベートゾーン」を子どもにどのように伝えれば分かりやすいかということについては、厳密にはいくつかの考え方があろうです。たとえば、文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の資料では、「プライベートゾーン」に該当する部分が「水ぎでかくれるところはじぶんだけのだいじなところだよ」と説明され、「いろんなひとにみせるところじゃないんだね!」「ロ・かおもたいせつだよ!」という補足が付されています。そこでの男児のイラストはパンツ部分の水着のみを着用したものが描かれています（https://www.mext.go.jp/content/20210416-mxt_kyousei02-000014005_31.pdf）。他に、厚生労働省の研究調査事業にもとづく「乳幼児期の性に関する情報提供 保健師や親子に関わる専門職のための手引き」では、「水着で隠れる部分（胸、おしり、性器）+ロはプライベートゾーン」と説明されており、男児・女児それぞれについて、一般的な水着を着たイラストとラッシュガードを着用したイラストが描かれています（https://meiiku.com/wp-content/uploads/2022/03/sei_tebiki.pdf）。本教材では、これらの資料に学びつつイラストの見やすさや説明のしやすさなどを総合的に勘案し、「くち」「みずぎやしたぎでかくれるところ」を「プライベートゾーン」として、「ひとのプライベートゾーンをむやみにさわらないようにしましょう」と説明することとし、男児がラッシュガードを着たイラストも載せることにしました。また、「プライベートゾーン」以外でも「さわられたくないところはひとによってちがう」ことを説明するイラストも用意しました。

(参考) ウェブサイト記載「授業を行う先生へ」

- ・ 本教材シリーズでは、善悪がはっきりしない状況や、つい見落とされがちな問題を積極的に取り上げ、リアリティのある物語として描いています。本教材をとおして、一人一人がいじめゲームのルールを変えるチェンジャーズとなってほしいという願いのもと制作をいたしました。
- ・ 教材を見れば、子どもたちからは何か言いたいことが出てくるはずです。子どもたちによる話し合いを中心に授業を進めてください。話し合いの時間をできるだけ多くとれるように、短めの尺の中で問題点を具体的に描いています。すぐに答えが出ないような難問についてねばりよく話し合いながら、他者への想像力を養ってほしいです。
- ・ 授業中は、子どもの話を丁寧に聞いたり、もやもやに共感したりする時間を大切にしてほしいです。「こうすべき」という結論を急がず、本音が出されることや、多様な意見が出されること、少数派の意見を丁寧に聞くことなどを大事にしてほしいです。
- ・ オープンエンドで終わることを想定していますが、「本時では多様な考えが出されてよかった」というだけではなく、「これから自分(たち)には何ができるだろうか」と今後の生活につながるような終末を目指したいと考えています。授業時間内に1つの結論を出す必要はなく、これからチェンジャーズになるためのきっかけを掴んでもらいたいと思っています。
- ・ モデル指導案を掲載しておりますが、クラスや子どもたちの実態に合わせ話し合いが深まるよう、自由に柔軟に授業を展開してください。1つの教材の中に、複数の問題が描かれており、主人公以外の視点から議論をすることが可能な教材もあります。道徳科、特別活動、総合的な学習の時間など、様々な教科等でご活用いただければ幸いです。